

本格的に飲酒し始めたのは高校生の時でした。月に2回くらいのペースで、平日にウイスキーボトルを1本空け、翌日は二日酔いで学校を休むようになりました。嫌いな授業は休む、好きな部活は参加するという、嫌いなことはしない、好きなことだけをするということが顕著に出始めたのもこのくらいのころからです。補習を受けながらなんとか高校を卒業し専門学校に入学しましたが、もうこのころには墮落人生の始まりです。学校は嫌い、専門学校でできた友人と遊びまわる方が楽しいと、親からもらった定期代なども交遊費に充ててまで遊び呆けていました。当然のように専門学校は1年も持たず退学、地元でフラフラする生活がしばらく続きました。心のどこかで、このままではダメだという思いもあり仕事を探すようになります。運よく拾ってもらえた会社は趣味の延長だった仕事で、楽しく、やりがいを感じながら働くことができました。社会人になったからには真面目に働いて、今までのような人生をやり直したいとビールジョッキ片手に思っていました。2~3年は真面目に働き職場からも信頼されるようになってきましたが、毎晩の飲酒は飲む量が増え始め、翌日の仕事に響くようになります。二日酔いで遅刻や欠勤。出勤しても与えられている業務もまともにできない。遊び代や酒代、趣味への過剰な出費などで給料だけでは生活のやりくりができなくなり消費者金融での借金。借りた金も返せなく、返さなくなり、会社の経費に手を付けるようになりました。入社して6年目で、当たり前のようにクビになります。専門学校を退学になりフラフラしていた私を拾ってくれた社長は、私にクビを言い渡すとき涙ぐんでいたのをいまでも覚えています。24才のときでした。

実家が自営業を営んでいたため、私はそこで働き始めました。私有家業を継げば4代目になるはずでした。前回同様2~3年真面目に働きました。この時も、もう今までのような人生は嫌だと心に決め、自分なりに一所懸命働いていたつもりでした。ただ毎晩の飲酒は続いていました。がんばって働いてお世話になった人たちや家族に恩返しをしなければと思っていても、不思議なことに20代前半から続いていた毎晩の飲酒量は減ることがなく増え続けていて、恩返しどころではなくなっていました。家族や仕事よりアルコールが自分にとって一番大切な存在になっていました。これを続けながら何人かの女性と付き合っては別れ、結婚、妻の出産、離婚と経験

し、気づいたら連続飲酒に突入し仕事もできなくなっていました。ここから、ただ飲むだけの生活が約4年弱続きました。どうにもならなくなり37才で精神病院に初入院。アルコール依存症と診断され、今のところ最後の飲酒となっている39才までの約2年間で4回の入退院を経験しました。アルコールに対して無力を認められず、人生がどうにもならなくなっていたことも認められず入退院をするたびに、家族が離れ、帰る家がなくなり、自分にとって大切なものがどんどんなくなっていました。逃げ場所を探すように死ぬことを考えていたときに、ふと、今までの人生はなんだったのか、うまくいかないことをすべてまわりのせいにしてきたけど、全部自分のせいでこうなってしまったのだということに気づきました。真実の片鱗がほんの少し見えたとき、アルコールを止めて人生を生き直したいと強く思いました。これが私の底つきでした。

裸同然で、なんでもするから助けてくださいとみのわマックに助けを求め、そのプログラムの中でRDにも通所させてもらいました。あれから10年以上の月日が流れ、飲まずに人生のやり直しをすることができています。

RDのスタッフとして、自分が経験し見てきた景色を少しでも多く仲間に伝えることが、ほんの少しだけど回復の手助けになると信じています。これからも同僚のスタッフや利用者さんたちと一緒に回復を続けていきます。

今日一日、すべてに感謝。